

令和5年度パネル展(会期：令和5年6月6日(火)～令和5年9月3日(日))

## 筑紫・豊(前)の四つの窓(後編)

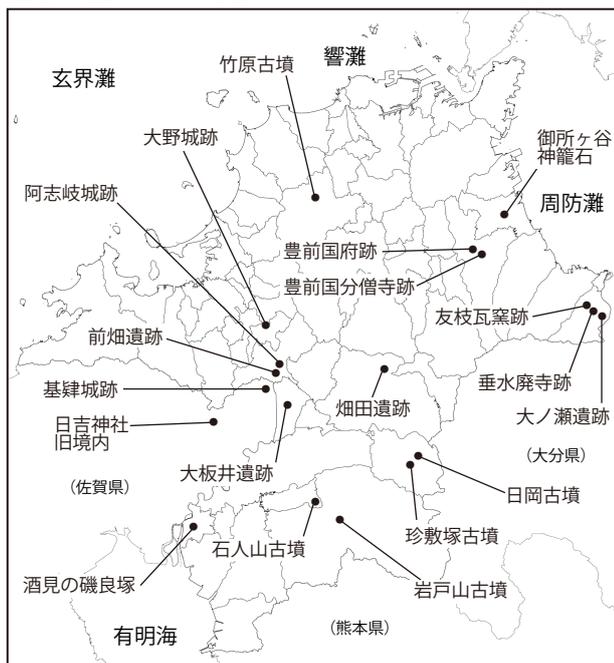


Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 福岡県の四つの窓

かつて筑紫・豊(前)と呼ばれていた福岡県は、その三方に海が開かれています。北の玄界灘と響灘、東の周防灘、そして南の有明海です。福岡県域の人々は古代より、この四つの海を通して各地とつながっていました。筑前沿岸部では玄界灘から壱岐・対馬島を経て、朝鮮半島や中国大陸と、また響灘から日本海沿岸部とそれぞれ通じていました。一方、筑後は有明海の沿岸諸地域と交流するにとどまらず、中国大陸への海路が開かれていた可能性も考えられます。そして周防灘に面した豊前は、瀬戸内海を経て大阪湾から近畿地方に通じていました。近年、江戸時代の国際関係について、従来の「鎖国」ではなく、「四つの窓」(長崎口、松前口、薩摩口、対馬口)を通じた交流が注目されていますが、福岡県の四つの海も、古代から内外各地との交流窓口の機能も果たした、「四つの窓」といえるでしょう。

本展では、この四つの窓に面した遺跡と、そこから浮かび上がる古代の交流の姿を、2回シリーズで紹介します。後編では、主に周防灘と有明海に面した地域の遺跡を見ていきます。



四つの海と本展紹介の遺跡

## 2 周防灘

はじめに周防灘の沿岸から、飛鳥時代以降の遺跡を紹介します。まず行橋市には古代の山城の一つである、御所ヶ谷神籠石ごごいしがあります。日本古代の山城には、天智天皇2(663)年の白村江の敗戦を契機に築造された朝鮮式山城と、神籠石の2種類が知られていますが、このうち神籠石は、築造が天智天皇に先立つ斉明天皇の7世紀中頃の可能性も想定されます。

築上郡上毛町には、瓦が出土した垂水廃寺たるみがあります。出土した瓦を見ると、軒丸瓦には渦巻状の文様、軒平瓦には宝相華文ほうそうげもんがあり、ともに新羅系の瓦でした。この地では窯跡群である友枝瓦窯跡も発見されています。大正2(1913)年に調査された1号窯跡は、硬質の砂岩をくりぬいた地下式有段の登り窯でした。瓦窯跡には他にも、築上郡築上町の船迫窯跡群があります。

周防灘沿岸の地域は、7世紀末の白鳳時代には豊前国となりました。周防灘からやや内陸に入った京都郡みやこ町は、豊前国の中心地で、御所・宮ノ下地区では平安時代の豊前国府跡が検出されています。さらに現在の国分寺は、古代の豊前国分僧寺跡でもあり、金堂や講堂跡の推定から、かつての薬師寺式の伽藍配置が想定されます。なお国府については近年、行橋市内で発掘された福原長者原遺跡ふくはらちやうじやばるが、奈良時代の豊前国府の有力候補となっています。また上毛町では、豊前国上毛郡の郡衙に当たる大ノ瀬遺跡が発見され、中門・正殿・東脇殿の遺構などが検出されています。



御所ヶ谷神籠石の中門跡

### 3 有明海

有明海沿岸からは、墳墓の遺跡を紹介します。まず、大石を地表に据えた墳墓・支石墓が、各地に点在しています。たとえば朝倉市の畑田遺跡では、昭和61(1986)年の発掘調査で支石墓5基が検出され、そのうち一つは上石が原位置で残っていました。小郡市の大板井遺跡でも、長さ2.8m、幅2m、厚さ60cmの大きな板石が横たわる支石墓が発掘されています。大川市の磯良神社には、磯良塚と呼ばれる大きな石の塚がありますが、明治36(1903)年に上石の下を掘り下げたところ、合わせ口の甕棺墓が見つかりました。これも支石墓と推測できるでしょう。

有明海から内陸に入った八女市やうきは市からは、古墳を紹介します。八女市の岩戸山古墳は、北部九州最大の豪族、筑紫君磐井の墓に比定される古墳です。『筑後国風土記』には、磐井の墳墓に石で作った石人・石馬が立ち並んでいたと記されていますが、岩戸山古墳ではこの石人石馬が確認されました。八女郡広川町の石人山古墳でも、石人一体が立てられていました。うきは市の珍敷塚古墳と日岡古墳は、石室に壁画が描かれた装飾古墳です。珍敷塚古墳は描かれている題材から、高句麗古墳壁画の影響が考えられます。日岡古墳は、的を表現するとみられる同心円文の装飾の存在から、古代豪族・的臣との関連も想像できます。宮若市の竹原古墳も、玄室壁面に人物・馬・舟、さらには朱雀・玄武も描かれた装飾古墳として知られています。



大板井遺跡の支石墓



岩戸山古墳と再現された石人石馬



大野城跡



酒見の磯良塚



珍敷塚古墳の石室の壁画



前畑遺跡の土塁

### 4 大宰府の守り

大宰府市に遺跡が残る大宰府は、かつて内外から海を越えて九州を訪れた人々が集う、九州のかなめというべき地方官衙でした。最後に、この大宰府を守るために築かれた施設の遺跡を紹介します。

大宰府市、大野城市、糟屋郡宇美町にまたがる大野城は、大宰府都城の北の守り(博多湾側)の山城です。天智天皇4(665)年に百済人の技術指導で築かれたことから、朝鮮式(百済式)山城とも呼ばれています。大宰府政庁背後の大城山(四王寺山)に立地し、ほぼ楕円形の尾根線上に、幅約8m、高さ約2mの土塁を築いていました。一方、南の守り(有明海側)としては、佐賀県三養基郡基山町の基肄(椽)城があり、総延長3.9kmにわたる土塁で取り囲まれていました。

また近年、大宰府を守る防衛施設として、大宰府の周囲を巡る大宰府羅城の存否が議論されています。筑紫野市の阿志岐城跡は、平成11(1999)年に新たに発見された神籠石系の古代山城で、総延長1.34kmの列石を伴う土塁線と、3カ所の水門跡が確認されました。大宰府羅城の一部の可能性があります。同じく筑紫野市で平成27(2015)年に発見された前畑遺跡は、かつて羅城の想定ラインとして問題提起された位置にある土塁で、大宰府羅城の存否論争に関わる重要な遺構といえます。

(執筆: 名誉館長 西谷 正)

(編集: 文化財企画推進室 渡部邦昭)



編集 発行: 令和5年6月6日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <https://kyureki.jp>